

資料編

1 デジタル化に向けた検討

(1) プロジェクトチーム

目的： テーマを「Society5.0」としてワークショップを開催しました。

対象： 20歳～40歳代職員（管理職以外）20人により5グループ組成

概要

令和元年 9月13日・・・オリエンテーション、ワーキング「ビッグデータ分析」

10月28日・・・課題「IoT、AI、ビッグデータ等の実用技術」、ワーキング「Society5.0」

11月25日・・・ワーキング「Society5.0」、発表（管理職参加）

提案

『誰もが容易に活用できる情報環境の整備』

▶ 問い合わせに対して、AIが自動的に回答。

『ビッグデータを活用した交通安全対策』

▶ 民間事業者が保有する急ブレーキ発生箇所データを活用しコーン、防護柵、標識等安全対策を実施。

『AIを用いた音声認識サービス』

▶ 会話を文字に変換し聴覚に障害がある方や外国人等への窓口対応に使用。議事録作成支援。

『万能型問合せサービス』

▶ AIを活用し電話や窓口での問い合わせ対応業務を代替。

『アプリを利用したボランティアタクシーの配車サービス』

▶ 配車サービスアプリにより住民をボランティア所有のマイカーで目的地に送迎。

(2) Society5.0・DX への取組

近年の技術革新により、インターネットを介した情報機器や、人の仕事を手伝うロボットなど、様々な機能を有した商品やサービスが提供されるようになりました。

増加する行政サービスに対して、少子高齢化による影響は大きく様々な分野において効率化を図り、迅速に対応することが求められています。

また、我が国全体の問題となりつつある労働力不足を解消するためにも、こうした新しい技術を活用した取組を推進し、住民サービスを高めていく必要があります。

町としても、費用対効果の検証や実証実験等から導入を検討していくこととします。以下は、総合計画策定過程において、最新技術の活用をテーマに各所属により提案されたものです。

分野	検討事項
健康	メールによる特定保健指導
	申請等の WEB 化
	リモートによる教室参加の推進
	健康ポイントと連動したアプリの導入
	クラウドファンディングの活用
子育て	受診予約の WEB 化
	インターネット、SNS を活用した情報の提供
	リモートによる教室参加の推進
	会員登録、施設登録申請、入所申込の WEB 化
	全国統一的な児童虐待防止システムの導入
高齢者 障害のある方	パソコンやスマートフォンを活用した情報配信
	リモートによる講習会への活用
	遠隔手話通訳サービスの導入
	分身ロボットによる就労など、障害のある方が自宅や病院にしながら社会参加する取組
	ICT 機器を学べる機会を設け、デジタル・ディバイド解消へ活用
社会保障	ケース記録や相談記録を共有できる環境へ活用し、該当者の対応時にスムーズに行える仕組みの構築
	来庁できない方を対象にした WEB コミュニケーションの導入
	啓発や周知における情報のメールマガジン化
学校教育	ICT 機器の活用（授業・家庭学習・家庭生活）を進め、Society5.0 に適合する吉岡人を育成
	電子書籍の導入

分野	検討事項
生涯学習	プログラミング講座の開催
	ICT 機器を使用した子ども向け講座の開催
	会場、場所、時間を制限されない講座の開設
	ICT 機器を学べる機会を設け、デジタル・ディバイド解消へ活用
多文化共生	ドローン等の活用によるスポーツ施設管理の効率化
	インターネットや SNS を活用した情報の提供や相談の場の提供
土地利用	人権啓発・人権教育の各種講座の YouTube 配信
	空中写真等を用いた新たな調査手法の導入
道路・公園	企業誘致における事業説明などをオンラインにより実施
	ビッグデータや AI を活用した道路清掃への活用
	AI を活用したドローン等により道路損傷箇所に予防的措置を施す取組
公共交通	施設利用の利便性向上につながるキャッシュレス決済の導入
	自動運転による公共交通
	オープンデータ化、IC カードの導入
	AI を活用した運行システム
環境	IoT、AI による温度、湿度、人感等各種センサーの制御による最適な空調管理により、庁舎内の良好な空調環境と省エネルギー化の両立
	ごみ分別アプリ、ごみ分別チャットボットの導入
	e モビリティ等公共交通機関の充実により自家用車の利用を削減し、脱炭素化
	非対面型の啓発事業の展開
	環境教育に関わる取組をオンラインにより体験できる機会を創出
上下水道	映像作品の配信により住み続けたいまちづくりにつなげる
	GIS による埋設管路の管理
農業	利用状況調査へのタブレットの導入
	農地・林地の GIS システムの導入
商業 観光	中小企業者の情報発信や販路開拓などにインターネットを活用
	オンラインによる職業紹介、相談、民間事業者との面談に活用
	啓発や周知における情報のメールマガジン化
	町観光ホームページ閲覧者の利便性向上に寄与する方法に活用
	道の駅よしおか温泉の魅力を遠隔地へ発信できるよう EC サイトの運営に活用

分野	検討事項
防災 防犯	消防水利の位置図の電子化
	避難行動要支援者名簿情報の共有
	広報・啓発活動の SNS 導入
	ため池監視システム等の導入
	講習会のネット配信
協働	WEB 導入等、若年層や子育て世帯がワークショップに参加しやすい環境の整備
	回覧板のデータ配信
	各団体の活動内容をネット発信し、誰もが容易に参加できる仕組みの構築
交流	オンライン会談等、経済や産業分野での持続可能な交流のあり方への活用
	WEB 会議システム等、大樹町との交流回数の増加への取組
行財政	デジタル社会の形成に向けた個人情報保護制度の見直し
	個人情報保護とデータ流通の両立を制度面から推進
	AI、IOT 技術を活用した業務システムによる業務効率化
	WEB 活用によるアンケートの実施
	AI の活用による補助金等の見直し
	マイナンバーカードの普及
	オンラインによる各証明書の交付申請受付
オンラインによる講演会や研修会の受付	
広報広聴	オンラインや映像配信等を活用した庁内講演会、研修会
	SNS による各種行政情報の発信

2 アンケート調査

目的： 第6次吉岡町総合計画策定にあたり、町の現状評価や定住意向をはじめ、今後期待するまちづくりの方向や各分野における施策要望など、住民の意識構造の実態を把握するため

対象： 町内居住 16 歳以上の住民 2,500 人を無作為抽出

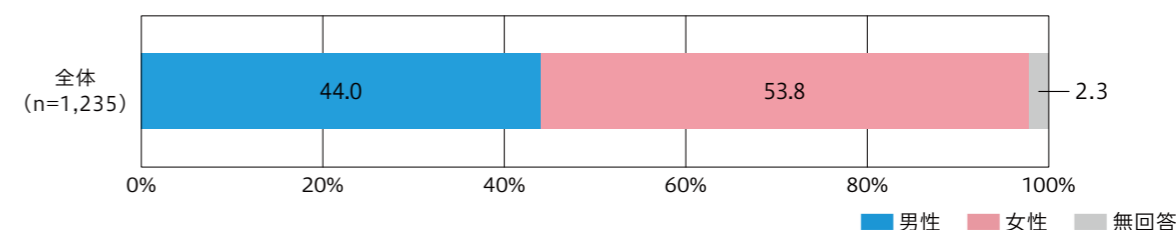
結果： 回答者数 1,235 人 (49.4%)

調査期間： 平成 30 年 11 月～12 月

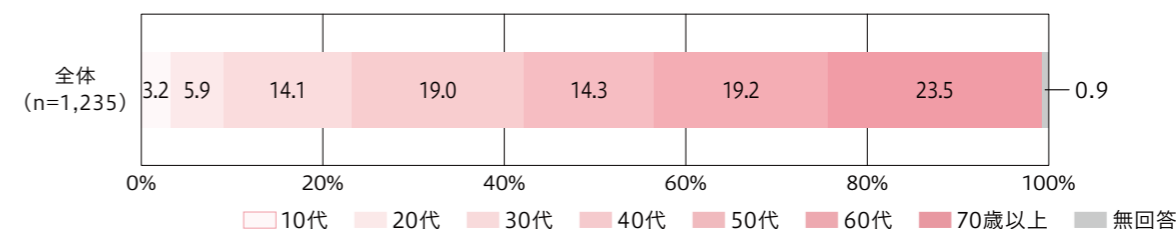
設問： 全 22 問 (町への愛着、今後の定住意向、今後のまちづくり、若者の定住対策として必要なこと、子育て支援について、高齢者社会への対応について、地域の福祉環境の充実に必要なこと、防災対策について、地域活動・ボランティア等への参加状況・参加意向、住民参画・協働のまちづくりについて、産業活性化に必要なこと 他)

回答者の属性

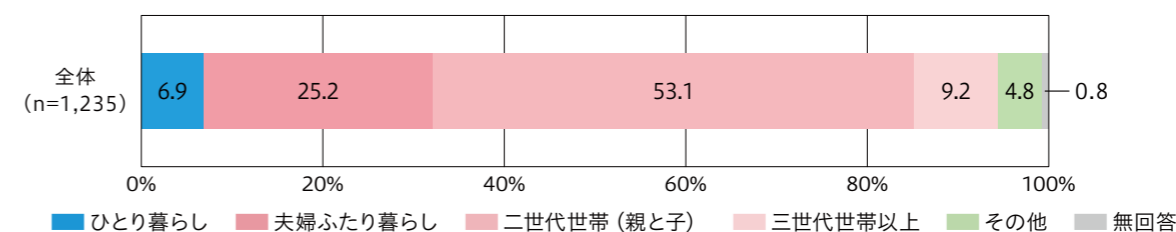
(1) 性別



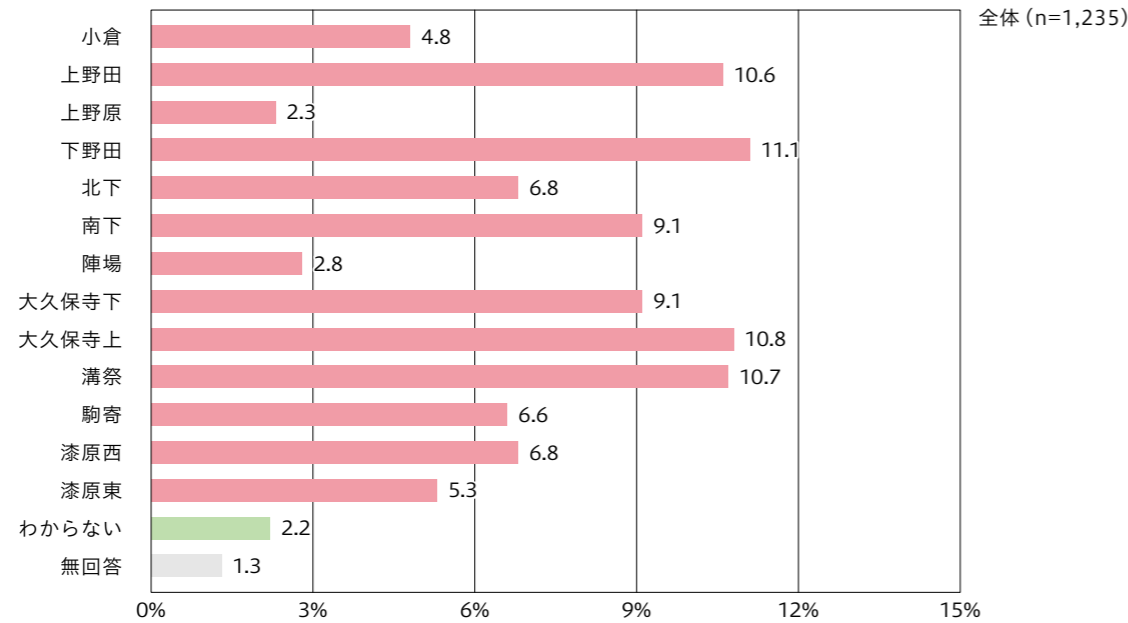
(2) 年齢



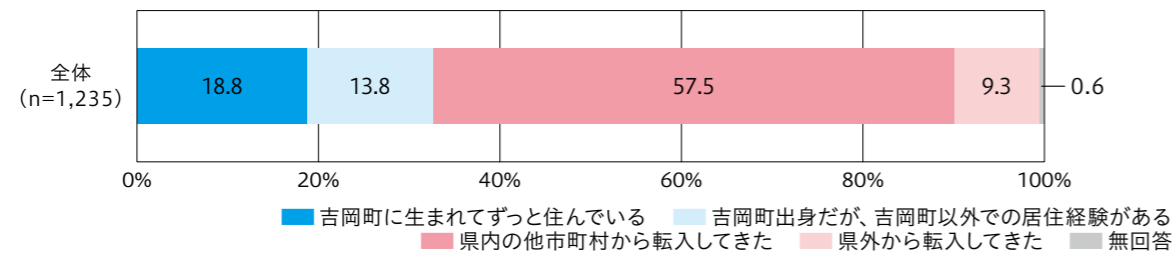
(3) 家族構成



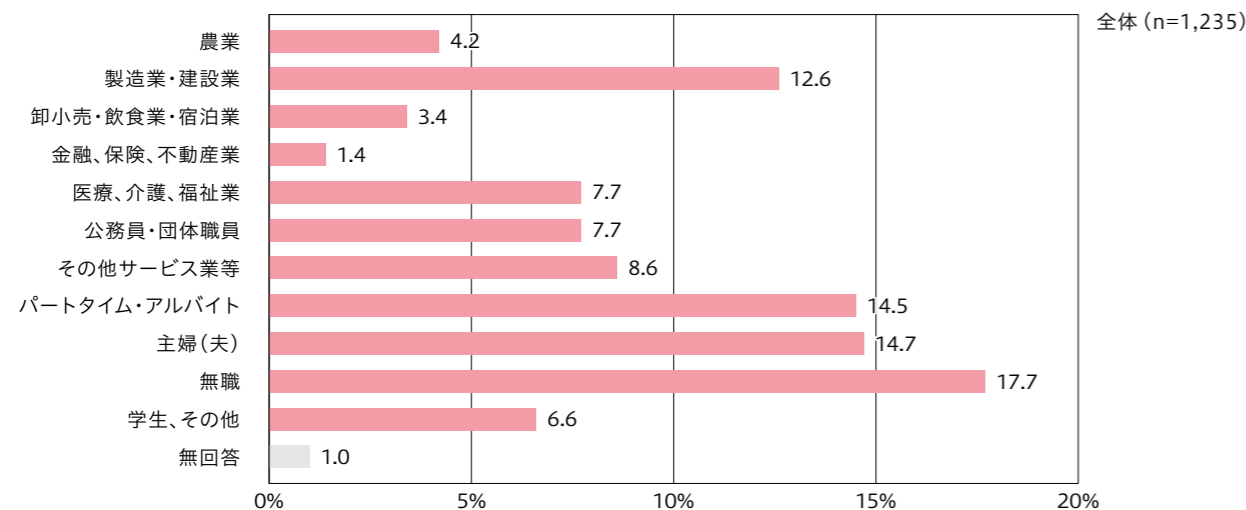
(4) 居住地



(5) 居住歴



(6) 職業



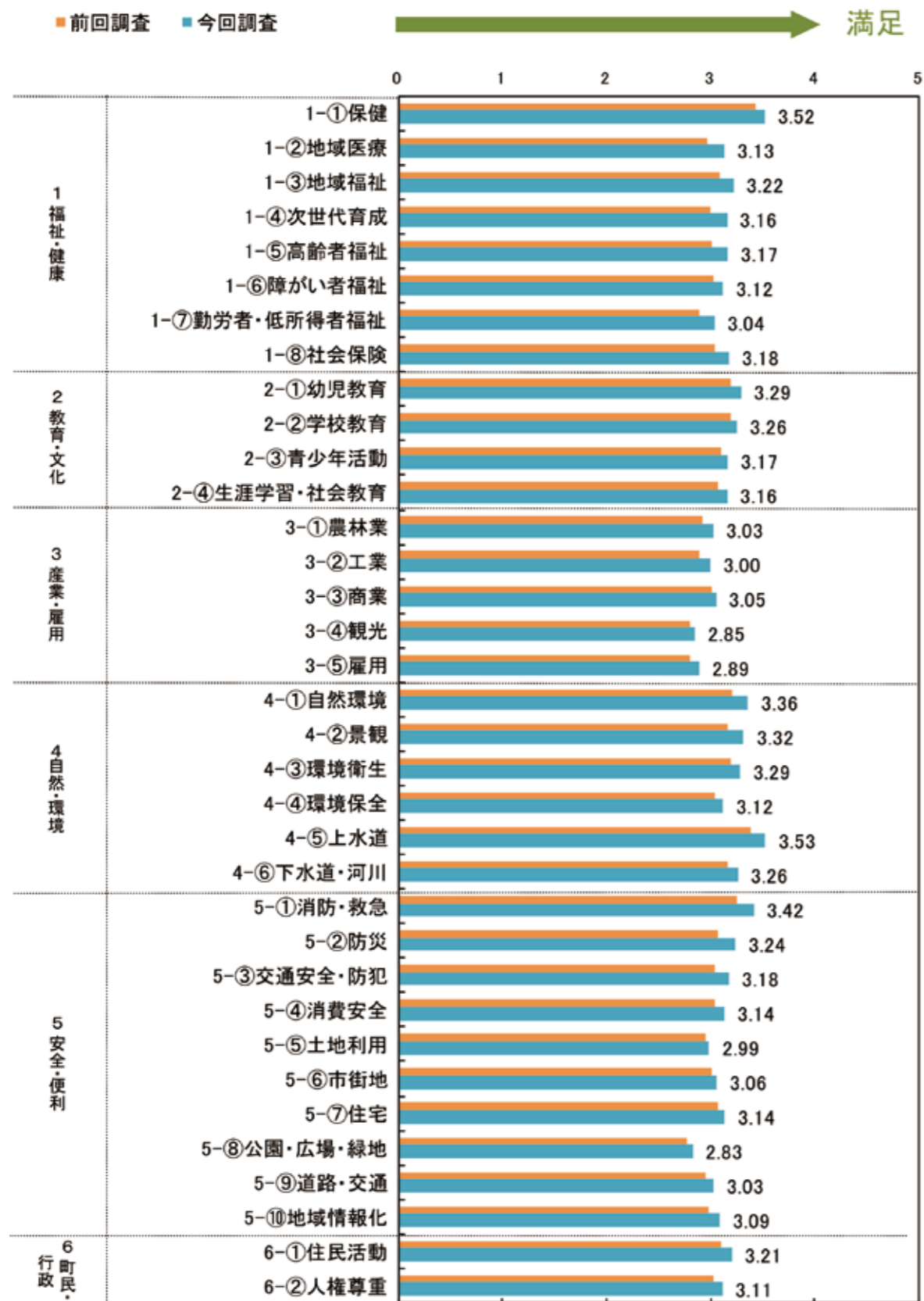
調査結果

アンケート調査では、まちの現状と今後の取組についてとして、町の施策やサービス、生活環境の「満足度」と「重要度」をそれぞれ5段階評価してもらいました。

- ・ 満足度の高い項目は、「4- ⑤上水道」(3.53点)となっており、次いで「1- ①保健」(3.52点)、「5- ①消防・救急」(3.42点)、「4- ①自然環境」(3.36点)、「4- ②景観」(3.32点)となっています。
- ・ 満足度の低い項目は、「5- ⑧公園・広場・緑地」(2.83点)が最も低く、次いで「3- ④観光」(2.85点)、「3- ⑤雇用」(2.89点)、「5- ⑤土地利用」(2.99点)、「3- ②工業」(3.00点)となっています。
- ・ 満足度について、前回調査(平成27年に実施した総合戦略策定のためのアンケート調査)と比較すると、すべての項目で満足度が増加しています。
- ・ 重要度の高い項目は「1- ②地域医療」(4.16点)となっており、次いで「4- ⑤上水道」(4.11点)、「5- ①消防・救急」(4.07点)、「5- ③交通安全・防犯」(4.06点)、「4- ⑥下水道・河川」(4.02点)となっています。
- ・ 重要度について、前回調査(平成27年に実施した総合戦略策定のためのアンケート調査)と比較すると、「1- ②地域医療」、「4- ⑤上水道」、「5- ①消防・救急」などの項目が引き続き上位に挙げられています。
- ・ 満足度と重要度の分析から、満足度が低く、重要度の高い、今後、特に力を入れて対応すべき項目は、「1- ②地域医療」、「5- ⑨道路・交通」などとなっています。

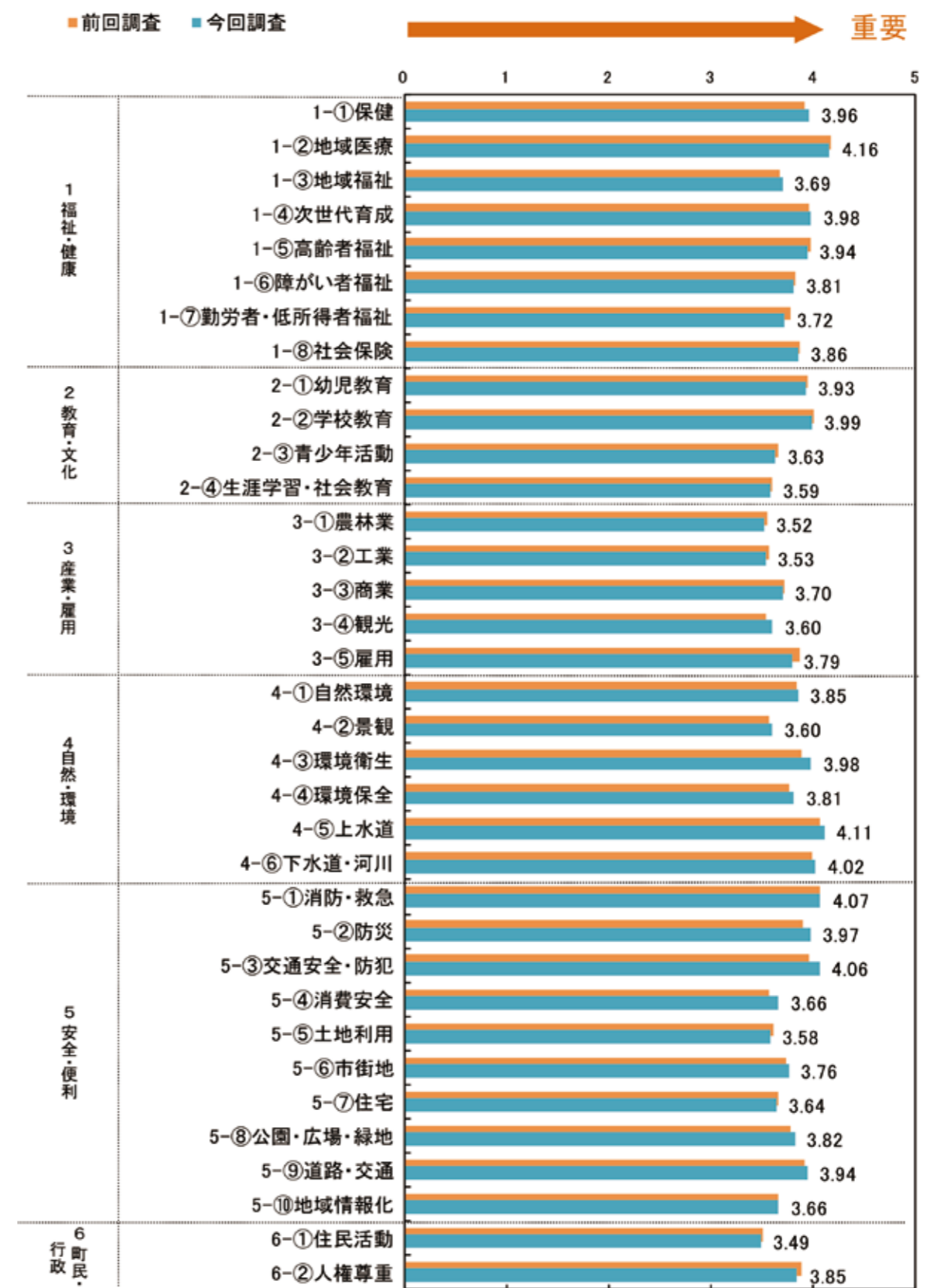
※数値は「非常に満足・非常に重要」を5点、「満足・重要」を4点、「どちらでもない」を3点、「不満・あまり重要でない」を2点、「非常に不満・重要でない」を1点とした加重平均による評価点。

満足度について（全体／評価点）



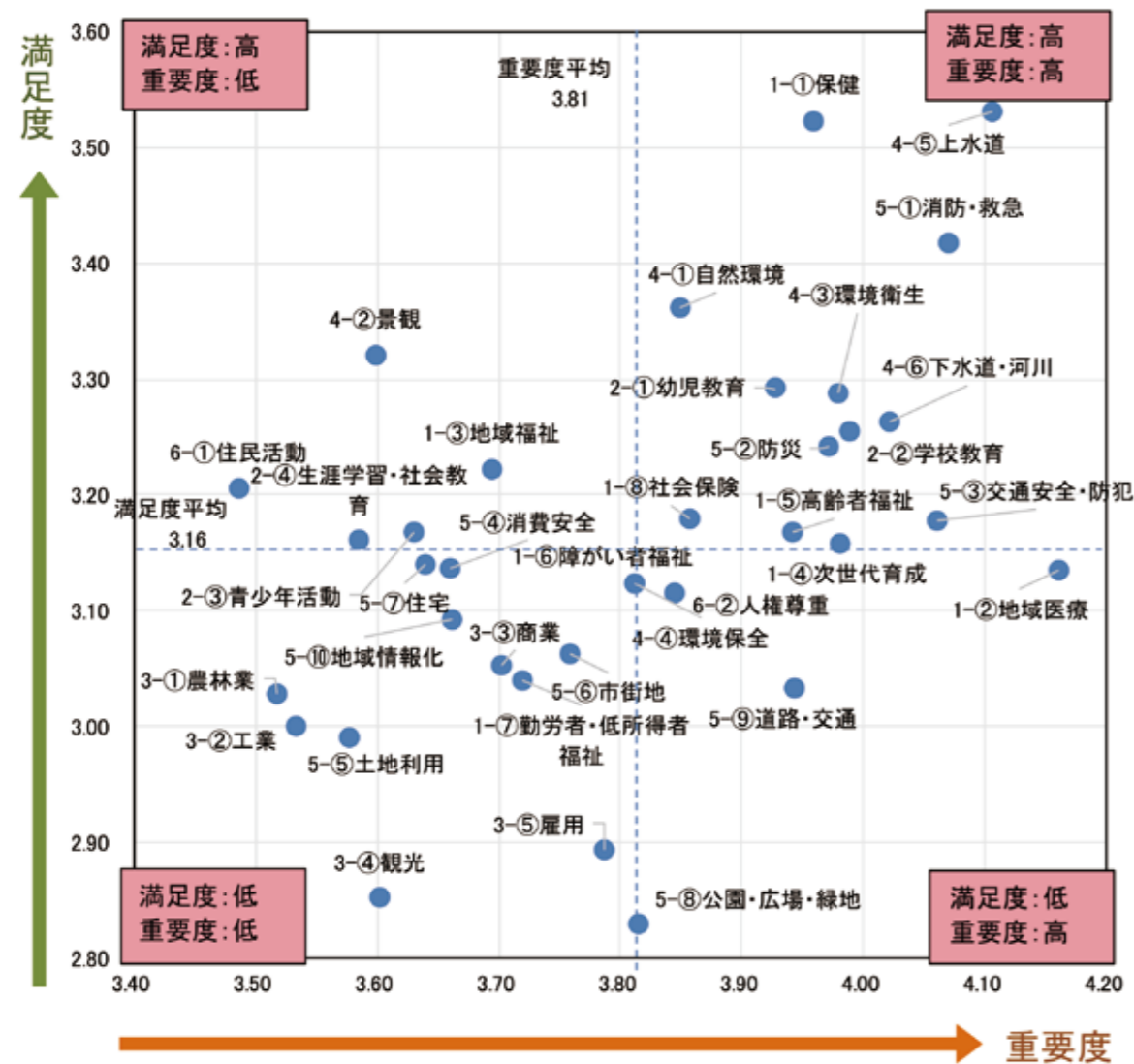
※前回調査は平成 27 年に実施した総合戦略策定のためのアンケート調査。

重要度について（全体／評価点）



※前回調査は平成 27 年に実施した総合戦略策定のためのアンケート調査。

満足度・重要度の分析（全体／評価点）



※縦軸が満足度、横軸が重要度であり、それぞれ点数が高いほど満足度または重要度が高いことを表しています。

アンケート調査の主な自由記載意見

10代～30代

- 風車がなくなり町のランドマークと呼べる施設がなくなった。
- ごみの分別をしっかりと規定してほしい。
- 高齢者が運転せざるを得ない環境になっているため移動販売などのサービスを充実させてほしい（事故防止）。
- 若人の意見としては、企業の誘致や就職、転職が行いやすい環境づくりなどに期待したいです。
- 高齢者の移動手段の確保・充実を図り、自宅で生活ができるだけ長く営めるような町にしてほしいです。
- 転入者が増え、子どもの数が急激に増加している。現状の教育施設、保育施設では受け止めきれなくなっているのではないかと？
- 遊具のある公園の整備(できれば1歳くらいの子でも遊ぶことができる遊具の設置)。近所に無いため、数を増やしてほしい。
- 人口が増えている町なので、これから先、20年30年とときが経つにつれ、子ども、高齢者が今よりもさらに増えた時の事を考えると、公共の交通機関、手段の充実や、通学路など安全や利便性が向上すればもっと住みよい町になると思う。

40代～50代

- 車社会の群馬において、吉岡町も同じです。最寄りの駅まで、バス停までが免許がない人や高齢者にとってすごく不便です。
- 町の講座に参加したくても平日の昼間などしかやっておらず参加しにくい。夜や土曜の昼間などを設定するなど選択肢を増やしてほしい。
- 交通手段として、駅まで遠いせいか帰りが遅くなると、車で迎えになることが多い、その時の八木原駅、群馬総社駅の交通渋滞が危ない。
- 3年前に田舎から引っ越して来ましたが(沼田方面)。吉岡町に来てまず思った事は夜、暗いという事です。
- 駒寄インター西側の整備、企業の誘致活動をすすめてほしい。船尾滝遊歩道の整備、もっと観光地化するべき。
- 他県から越してきて数年すぎましたが、子育てするにも安心でき、よい町だなと思っております。
- 小中学生の通学路の安全を確保してほしい。

60代以上

- 外灯の灯りが少なすぎて、夜、隣の家に行くのも危ないくらいです。町の中を明るくする事に望みます。
- 免許を返納した後が不安です。
- 私は今、老老介護をしています。今までは(約4年になります)なんとかやって来ましたが年がたつにつれて心配事が増えてきて夜もねむれることができません。
- 町の礎は若い人達があふれることがなによりです。そのために子育ての環境に配慮した施策が不可欠です。
- 大きな商業施設の誘致はよいのですが、それに伴って地元の住人が交通渋滞に巻き込まれるのは困ります。
- 現在ボランティア活動に参加させて頂いていますが、「ボランティアポイント」などあるといいなと思います。
- 近年自然災害が多くなっていますが、これからも益々増加傾向になるかと思われます。「災害に強いまちづくり」を重点に政策をお願いしたい。

3 住民・団体・中学生 ワークショップ

(1) 住民ワークショップ

目的： 協働のまちづくりのもと計画策定を進めるにあたり、テーマを「住みたくなる・住み続けたい吉岡町をめざして」としてワークショップを開催しました。

対象： 年代・性別・役職問わず自治会より推薦いただいた 22 人
 ※男性 7 人 女性 15 人
 20代：1人 30代：2人 40代：8人 50代：4人 60代：3人 70代：4人

概要

令和 2 年 10 月 26 日・・・オリエンテーション、ワーキング「現在の吉岡町」、発表 19 人参加
 11 月 13 日・・・ワーキング「地域産業・観光・教育・文化」、発表 17 人参加
 12 月 7 日・・・ワーキング「福祉・健康・生活環境」、発表 14 人参加

第 1 回

5つのグループに分かれ、現在の吉岡町の 11 の分野（交通、施設、自然環境等）に関して、それぞれ「自慢できるところ」、「改善した方がいいところ」をグループワークしてもらい発表いただきました。

交通

自慢できるところ	改善した方がいいところ
幹線道路が通っている、前橋・高崎に出やすい、サイクリングロードの整備、道路網がしっかりしていて交通の便がよい（×2）、インターにも近い、前橋・高崎に近く何かと便利、病院が近くにある、老人の散歩道がある、道路交通の便が良いところ、病院が近くにある！、コンビニも近くにある	安全な道が確保されていない（×11、通学路や自転車、シニアカーの通り道）、公共交通の不足（×11、タクシーや駅）、外灯の少なさ（×9）、高齢者の交通手段の不足（×3）、大久保と小倉で差がある、側道側溝の雑草処理が悪い、朝夕の交通渋滞がすごい、駅がほしい、路地の場所はもう少しスピードを制限した方がいい、小学校の通学路に日陰がない

施設

自慢できるところ	改善した方がいいところ
町社会福祉協議会（町老人福祉センター）の活動（×2、サービスが親切だという声も）、図書館、保健センターの充実	映画館がない、図書館の分館があると遠方の人も行ける

自然環境

自慢できるところ	改善した方がいいところ
城山みはらし公園（×2）、自然が多い、適度に田舎夜景、お水がおいしい、自然と利便性のバランスが良い、緑がたくさん残っている、河川5本全て清水、緑が多い、自然がたくさんある、サイクリングロードの桜並木が4月になると見事、上野田、上野原からの夜景、老人が散歩できる道がある	魚道が無くサケが登れない（×2）、河川が汚く魚が住めない（×2）、住宅が増加する一方で自然が減少

社会環境

自慢できるところ	改善した方がいいところ
環境が静か、静かで平和な町、夜は割合に静か、ゴミ集積所が充実している、公園が近くにあり楽しい	足湯が貧弱、散歩時における犬のふんの始末、利根川沿いの整備

人的環境

自慢できるところ	改善した方がいいところ
「ふれあいいきいきサロン」の活動が盛ん（×2）、若い人達が住むようになってきている、自治会の方が若い世代に親切、お年寄りが活動的、地域の方が親切（軽トラ貸してくれる）、道を歩いているとあいさつしてくれる、近所のつながりがまだまだある、通学中の子どもがアイサツを返してくれる、あいさつをしたら返してくれる人が多いところ	世帯は増えているが横のつながりがいい？、色々な集まりがあるらしいがもう少し新しい人達に声かけをした方がいい、子どもが成長すると都会へ行ってしまふ、若い人が地域の活動に参加する機会が少ない、新旧住民がなかなかなじめない、祭りの参加者が減っている

人口

自慢できるところ	改善した方がいいところ
人が増える→店がたくさん→好循環、吉岡町の人口増（住みやすいから）、子どもが多く活気がある、若い人達が住むようになってきている	子どもの増加に対し防犯体制が弱い

生活

自慢できるところ	改善した方がいいところ
図書館、ごみのルールが守られている、粗大ごみの引取、神社が大切にされている、年末年始の行事・バザーも行われている、店が多い、ボランティア、団体等で各年代とつながりがもてる（BBQ、飲み会等）、自衛隊が隣の棟東村にあるので恩恵がある、前橋・高崎のベッドタウンで土地が安く人気がある、高齢者が多く義理人情が厚い、ごみ収集の決まりが守られているところ、ごみが道に少ないところ、ぶどう園の時期が楽しみ、治安が良い、買い物便利（×5、大型店やコンビニ）	ごみ出しのマナーが悪い（×4、袋に記名を求め声も）、情報発信（SNS）が少ない、ごみ出しのルールを守らない人がいる、船尾滝を早く整備してほしい、ふるさと祭が地味（露店や雰囲気）、お弁当屋ほしい、自衛隊のヘリが窓ガラスを揺らすので不愉快、小売店が少なく買物が不便

福祉

自慢できるところ	改善した方がいいところ
—	介護の負担、障害のある方や高齢者の居場所確保、介護の負担を減らしてほしい(おむつ代等)

防災

自慢できるところ	改善した方がいいところ
自然災害が少ない(×2)	屋外で防災無線が聞き取りにくい、シカやイノシシが出没、避難場所が明確になっていない(災害広報の課題)

防犯

自慢できるところ	改善した方がいいところ
治安が良い	防犯カメラを設置してほしい(×3)

子育て・教育

自慢できるところ	改善した方がいいところ
中学で県内最速でタブレットが配布された(×3)、子どもの人数が多い町だが他の市町村の学校と比べても案外教育が行き届いている、子どもの非行が少ない、世帯が増え続けて今後がたのしい、子どもの人数が多くなると色々な友達ができる、三宮神社例大祭が楽しかった	公園が少ない(×5)、学校休暇中の学童保育の必要性(×3)、体育館が狭い(危険、選手・応援者)、給食費を無料にする、今年は特別(コロナの関係で子どもたちがかわいそう)、子どもが1年を通して遊び学べる場所や施設がない、行事等の参加人数が少ない子どもが自転車の練習ができる広場がほしい

第2回

5つのグループに分かれ、「教育・文化」と「産業・観光」に関して、それぞれ「さらに伸ばしていくべきところ」、「改善した方がいいところ」、「将来の方向性および具体策」をグループワークしてもらい発表いただきました。

教育

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
学校施設・教育関連 あいさつの良さ(×2、子どもたちがあいさつできる、あいさつ運動の継続)、子どもの人数が多い、コロナ休暇の時の対応が良かった、学校の登校時、校舎が増築(利用のし易さ)、教育機器が早い(タブレット)、駒小の生徒が帽子の色で学年が分かる	学校教育・施設関連 学校の不足(×2、高校・専門学校・大学)、PCが配られたがどういう風に使っていくのか分からない
スポーツ関連 ナイター付きスポーツ施設の増築(×2、400mトラック、駐車場付の総合グラウンド)、スポーツ施設が多い、スポーツ選手の育成	スポーツ関連 高齢者が運動できる場所がほしい
人材育成関連 活躍する(した)先輩の姿を見て、子どものモチベーションを高める、専門性の高い人の発掘、能力の育成	人材育成関連 専門性を持つ人をもっと活用
治安・交通関連 —	治安・交通関連 治安面の不安(×2、人口増に伴う犯罪増、子どもの外出時の安全性)、アシスト自転車をOKにしてほしい

将来の方向性および具体策

学校教育・施設関連 学校数の充実(×4、10年後には学校が2つ、町内に来る教育機関に税金をかけない、全国の教育機関の誘致、大学と高校を1つずつ)、大手学習塾誘致、芸術家やノーベル賞受賞者が排出される、モラルのある人を育成
スポーツ関連 スポーツ機会の増大(×3、サッカー等の大会、活躍の場、スポーツ大会の種類)、スポーツ施設の整備(×2、サッカー場やグラウンドの増 or 整備、屋内運動場の建設)
人材育成関連 より専門性の高い人を集める
治安・交通関連 地域の見守り強化(×4、ボランティアや保護者による旗振り、防犯カメラの増設、青パト増加、パトロールのために車にマグネット)、犯罪のないまちづくり
社会教育・その他 図書館の分館を造る、学校教育・家庭教育・社会教育の充実、町民手づくり講座の充実、学校や文化センターで出前講座

文化

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
文化資源関連 文化財が多い	文化資源関連 祭り・信仰関連（×3、祭りなどの実施が若い人が関心なく難しい、神社の祭り・道祖神が減っている、祭りの復活）、地域行事等の存続、文化財は広報等で紹介されるが一過性で忘れる

将来の方向性および具体策

文化的資源関連 文化財関連（×3、文化財の整備、文化財のアピール、吉岡の史跡めぐり（スタンプラリーをやってほしい））
施設関連 文化センター関連（×3、文化センターの利用促進、文化センター事業の情報発信、文化センターの利用促進）、偉人の記念館の建設
伝統文化および伝統文化の継承 祭り関連（×4、ふるさと祭りの内容の見直し（役場や有志で委員会を作る）、後継者の育成、神道を伝える（神社とか祭りの意味・そのための地域の先達）、文化・伝統の青少年への継承）、群馬県でも有名な三宮神社をもっと宣伝すべき
その他 劇団を作る→芸能人（市民劇団）、ダンスチームを作る

産業

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
消費関連 大型店の競合で消費者にとっては買い得	工場・商店関連 働く場所の不足（工場に地元の人が働いているとの情報を聞かない、近所の若い人は地元で仕事をしていない）、製造業への支援が少ない事、小さい商店の減少
その他 流通団地（インター付近）	その他 —

将来の方向性および具体策

企業誘致関連 企業・小売店誘致（×3、インターチェンジを活用した企業誘致、各種飲食店）、工場誘致（吉岡ブランドの食べ物、飲み物）
その他 特産物の販路拡大、工場見学等の実施、若者に魅力のあるまちづくり（店の誘致、子どもの遊び場）

農業

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
農産物関連 野菜・果物関連（×5、おいしい野菜、乾燥イモ（干し芋）、ぶどう、農産物のブランド化（チンゲンサイ、トマト、ぶどう、いちご）、農産物を手軽に入るようにする（トマト、ナス、キャベツ、キュウリ等））	農家関連 農家の減少（×2、高齢で農業をやめる人が多い、農業従事者の減少）

将来の方向性および具体策

農地関連 農地の有効活用（×3、農地が多いので有効活用（同じ書き込み2回）、休耕地の有効利用で農業体験）
農産物関連 広報・PR（×2、デザイン学校の先生に依頼（ポスター等）、吉岡町乾燥イモを誰でもみられるように宣伝する（チラシ）、町の方針として兼業農家にも乾燥イモづくりを伝承する、特産品（イモ・ブドウ等）のブランド化企業によって冷凍干しイモの販売、色々種類も多く量もどんどん出してもらいたい（※おそらく農産物の販売のこと）
農業従事者関連 高齢者・障害のある方の雇用（×2、農業を高齢者や障害のある方やひきこもりが働ける場所にする（野菜、ぶどう、乾燥イモ等を作り続けるため）、障害のある方と引退した高齢者の協力（ぶどうなどの農業））

その他

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
公園関連 —	公園関連 公園の整備（×2、犬が散歩できる公園がない、公園の駐車場が狭い）

将来の方向性および具体策

駅ができる・人が集まる、老人ホーム建設、老人にもう少し依頼して動いてもらうことも大切

第3回

4つのグループに分かれ、「健康・福祉」と「生活環境」に関して、それぞれ「さらに伸ばしていくべきところ」、「改善した方がいいところ」、「将来の方向性および具体策」をグループワークしてもらい発表いただきました。

健康・福祉

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
健康関連 健康 No.1 事業（×2、事業の充実）、ラジオ体操（×2、ラジオ体操による健康づくり、雨の日でもラジオ体操にくる人がいる）、健康づくりのための講座が開催されている、健康講習会をインターネットで見られるようにしてほしい、自治会主導で健康事業を進めていきたい	健康関連 —
施設関連 地域の施設サービス等（×2、認知症カフェの充実（ROBAROBA、元気になるカフェ）、地域のサロンの充実）	施設関連 —
ボランティア・地域活動関連 —	ボランティア・地域活動関連 活動の人材確保の困難（×3、屋外・野外を問わずメンバーが固定されてしまう、参加者が少ない、主体的にやってくれそうな人は高齢で難しい）、運営上の困難（×3、講習を受けても日常の戻ると忘れてしまう、名簿作成が個人情報問題があり難しい、地元役員のための事業になりやすい）
その他 コロナ禍での外出や交流の方法	その他 高齢者施設のある場所にかたよりのある、予防接種の補助をもっと充実させるべき、障害のある方の社会参加が少ない

将来の方向性および具体策

ボランティア関連 ボランティア活動の推進（×4、若い人や学生のボランティアを増やす、子どもの参加、ボランティアによる高齢者のゴミ出しの手伝い）
施設関連 高齢者の活動の場（×4、認知症カフェ「ROBAROBA」を増築する、町社会福祉協議会が「いきいきサロン」に積極的に関与する、高齢者施設や医療施設を歩いて行ける場所に増やす、施設外にも活動の場（住民と協力）、高齢者の活躍場所を増やす）
その他 有志でスポーツ関係の人材を確保、健康寿命を延ばす、町社会福祉協議会が呼びかける

生活・環境

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
交通関連 幹線道路の車線が増えた	交通関連 道路等の未整備（×13、歩車分離の信号があるとよい、横断歩道が少ない、路地を通る車にスピード制限がないため危険、通学路に危険箇所が多い（歩道なし）、道路に段差がある、信号のある所は音楽が鳴るとよいのでは、雨などの時に水がたまりやすい道路がある、朝夕の道路渋滞、道路環境の改善、一時停止の表示が薄い・ない、街灯が少ない、道が暗い（街灯が少ない）、街灯が少なく暗い道が多い、公共交通等の未整備（×8、乗り合いバスの本数が少ない、高齢者の移動手段がない、駅が欲しい、公共交通が不便、免許を返納した高齢者が多い、バスの本数が少ない、『ぐるりん』のような巡回のバスがない、高齢者の乗り合いで買い物は事故を考えると責任もあり難しい）
施設関連 誰でも集まれる場所がある	施設関連 スポーツ施設の整備（×3、スポーツアリーナの建設、室内運動場（グラウンド）建設、運動できる屋内施設の建設）、集会所が狭い、道温泉の充実、遊園地造成、ガソリンスタンドの減少、子どもが休日集える場所（公園・児童館に近いような）が不足している
防災・防犯関連 防災訓練（×3、防災訓練の実施、町全体での防災訓練をしていた、町総合避難訓練を継続して行う）、防災無線のデジタル化、ハザードマップの毎戸配布、青パト、夜間の出歩きが少ない、自治会役員による年末パトロール実施（2週間）	防災・防犯関連 避難方法が不明（×2、避難方法がわからない、災害が起こった時の避難場所がわからない）、避難所に対する不安（×3、避難場所が少ない、上野原集会所避難所が安全と思えない、指定された最寄りの避難所に集まりきれぬのか心配）、防災意識が低い、近所の人と独居の共通理解、不審者情報が多い、偏りのないパトロール（青パト）など
福祉関連 —	福祉関連 町老人福祉センター改築、高齢者のゴミ出しが困難、障害のある方の社会参加が少ない
ごみ関連 ごみの回収（×3、資源ごみの回収、ごみ収集のルールが守られている、自治会の廃品回収をよくやってもらえている）	ごみ関連 ごみ出し（×2ごみの収集箱が小さいために、外にゴミが出てしまうが出ていと回収してもらえない、ごみ収集が時間より早く来ている）
その他 夜は静かで星がきれいに見える	その他 自治会役員の負担が多い

将来の方向性および具体策

自治会・地域社会関連 自治会の活発化（×2、自治会活動への補助金増額、地域活動に参加する機会をつくる）、役場職員の地域体験活動の活性化
交通関連 交通サービスの整備（×3、福祉タクシー、町のワゴン車フル活用、高齢者の増加に伴うためバスを安全な輸送手段として考えていくべき）、ランドセルに貼る反射材を小学生に配る
防犯 高齢者見守り活動、全戸にソーラーセンサーライトを配布し防犯対策にする
その他 サツマイモ掘り（会社も参加）、地域観光の名所に子どもを招待、有志でスポーツ関係の人材を確保

(2) 団体ワークショップ

目的：協働のまちづくりのもと計画策定を進めるにあたり、テーマを「住みたくなる・住み続けたい吉岡町をめざして」としてワークショップを開催しました。

対象：健康・福祉・教育・文化・スポーツ・住民活動・商工農業・消防・交通・防犯分野における町内各種団体代表 21 人(団体)
 ※男性：15 人 女性：6 人
 30代：3人 40代：3人 50代：3人 60代：4人 70代：8人

概要

令和3年3月5日・・・オリエンテーション、ワーキング「これからのまちづくり」、発表 15人参加

各種団体代表の方が4つのグループに分かれ、「インフラ」、「産業」、「安全・安心」、「教育」、「行財政」、「その他」から1つを選択肢し、それぞれ「さらに伸ばしていくべきところ」、「改善した方がいいところ」、「将来の方向性および具体策」をグループワークしてもらい発表いただきました。

インフラ

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
交通関連 交通網の整備(×3、道路がやや整備されている、交通の便がいい(バイパス)、吉岡町は県内の中心に位置し通勤可能な地域)	交通関連 交通網の未整備(×4、最寄り駅(群馬総社駅、八木原駅)までの道のり、旧伊香保線の交通の危険性、定期バスの利用(空車が多い)、歩道の整備)
観光関連 サイクリングロード、道の駅の充実、利根川沿いの桜並木	観光関連 吉岡町の名所の案内板等設置
公園・自然環境関連 公園の確保(×2、河川敷公園や防災公園の充実、各方面に公園がある)、まだ自然が多くキツネ・タヌキ・ハヤブサ等の動物が生息している	公園・自然環境関連 公園の確保(×3、公園の利用方法、公園を増やす、公園内に家族で楽しめる場所を(バーベキュー設置)、子どもの遊べる場所を増やしてほしい)、動物の保護等を考える(キツネ、ハヤブサ、ゴイサギ等)、耕していない畑による砂ぼこり
その他 空き地の利用	その他 吉岡町の西と東の景観の違いを踏まえたまちづくりを行う、アパートが多すぎる

将来の方向性および具体策
交通関連 町内循環バスを運行させる
観光関連 サイクリングロードや吉岡川沿いに桜並木がある(川沿いの土地の買収を町や県の補助金でまかなう・木はまちが募集して植え植樹祭も行う・整備は里親やボランティアへ業務委託で年に2回)、駐車場が整備されて県内外から桜を見に来てサイクリング・散歩・祭りが楽しめる
公園・自然環境関連 公園の確保(×2、公園が身近にあると感じるように増やす、子どもが騒いで走り回れる公園)
その他 空き地・空き家・耕されていない田畑を何かに利用する(自治会や農業委員に委託)

安全・安心

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
コミュニティ関連 集まりの場の確保(×3、高齢者のお茶会やお食事会をしている、シニアカフェ等の高齢者たちの集いの場を設ける、町老人福祉センターでの集い)、隣近所の声のかけ合い、ボランティアの人が中心になり実行している行為等の周知	コミュニティ関連 行事参加(×2、すべての行事の一覧表の作成、行事の参加人数の増加)、地域での高齢者の情報共有、自分の住んでいる地域以外の呼び名がわからない
健康関連 健康診断等(×3、集団検診の充実(がん検診等)、健康診断等の受診人数の増、自分自身の健康数値を把握)、体操教室(×2、各地域の自治会集会所での体操参加を募る、公民館活動の健康教室(ヨガ・ダンベル))	健康関連 —
児童教育 保育園や幼稚園の園児に対して食育活動、児童館において食育指導	児童教育 —
施設、交通関連 新しい道路や施設のバリアフリー化が良い、介護施設が増えて良い	施設、交通関連 公共交通等の未整備(×6、照明が少ない、公共施設へのアクセスが悪い、通学路の確保、学校へのアクセスが悪い、通学路の確保、道路が狭い)
防災関連 —	防災関連 防災無線が聞き取りにくい

将来の方向性および具体策
生活サービス関連 車を所有しない高齢者への買い物代行、一人暮らしの人へのボランティア食事サービス
交通関連 交通網等の整備(×4、大型店の用地の安全確保、インターチェンジ周辺での歩行者や車両の分別化、町全体の野点灯の増設、舗道の整備)
コミュニティ、治安関連 声かけ活動等(×3、健康推進員に声かけてもらう、声のかけ合いに参加する人を増やす、防犯パトロール)、まちや自治会の行事等を全住民に周知をする
その他 自治会の集会所での体操参加を募る、地域住民からの意見を聞く場をつくる

教育

さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ
子どもの教育関連 情報教育(×2、タブレットの充実、情報教育を早く導入できた点)、古くからの住民が子どもの教育やまちの指針に理解がある点、活発で実績のある中学校の部活動、学校現場で教職員が身近に感じられる点、子育て支援、保育園に入りやすい子育て環境、幼児教育に付加価値を与えている点	子どもの教育関連 情報教育(×2、情報教育に教育現場がついていけない点、ネット・ゲーム・スマホの使用ルール)、子育て支援(×2、子育ての問題を抱える保護者への支援、貧困家族・ひとり親家族・不登校・引きこもり対策支援)、特色ある幼児・学校教育(特筆すべき点が特に少ない点)、将来的に自立するための工夫を教える教育、部活の指導者に民間人が入っていない
施設・設備関連 施設の整備(×3、人口増に対する施設整備、気軽によれる場所、児童館の利用促進)	施設・設備関連 —
スポーツ・文化関連 活発なスポーツ活動(×2(スポーツ)大会で優秀な成績を出せる子どもが多い、幼児から高齢者までみんなスポーツ)、スポーツ協会の法人化	スポーツ・文化関連 文化、芸術関連(×4、文化・芸能活動、伝統文化の継承、アートセンターがない、芸術に触れる機会を増やす)、地域行事の減少、吉岡・群馬の良い部分悪い部分を学習できる教育、プールがない、吉岡町をよく知らない
生涯教育関連 生涯学習の推進(×3、生涯学習教室の充実、公民館の生涯学習活動、図書館の利用率が高い)	生涯教育関連 生涯学習の推進(×2、生涯学習や公民館活動で何をやっているか多くの人に知ってもらえるように、働く世代が気兼ねなく子どもと参加できる地域生涯教育が減少している点)
地域交流、地域社会関連 地域住民の交流の活発化(×3、他施設との交流、異なる年齢間での地域活動交流、地域巻き込みでの総合学習)	地域交流、地域社会関連 —
その他 —	その他 町内でフロントランナーを見ることがない

将来の方向性および具体策

子どもの教育関連 地元愛を育む教育(×4、時代を持ちつつも地域や個を大切にできる教育、特に地域を大切にできる心を育むための教育、町の歴史を学べる、吉岡町を誇りに思ってもらおう)
多様な教育ための人材確保 特定の科目に特化した教育者の確保(×4、科学の指導のできる先生を採る、専門の指導者の充実、歴史文化の指導のできる先生を採る、気軽に相談できる窓口や人)、早く新しい教育を常に導入する、子育てに悩まない自治体、住民の細部まで手の行き届く支援の充実、学校教育の更なる発展を行政へ、自分たちのために子どもに色々学ぶ機会を
施設・設備関連 町民の立ち寄れる場所の確保(×4、認知症カフェ「よしおかロバロバ」の活用、無料で楽しく寄れる場所、町内全域どこでも寄れる、芝生の広場)
スポーツ・文化関連 スポーツ関連施設の確保(×4、プールをつくる、法人のスポーツクラブを作る、スポーツクラブが温泉を運営する、法人化したスポーツクラブでプールを運営)、アートセンターを造る
生涯教育関連 子どもから大人まで学ぶ(歴史) ことが当たり前
地域交流関連 地域住民の交流の活発化(×6、住民が気兼ねなく交流できる活動、子どもと大人が楽に交流できる絆のあるまち、地域住民・父兄・お年寄によるサロン、子育て世代が幅広く交流する為の工夫を自治会でできるか、不動産や町も自治会を理解する、地域全体で子どもを育てる気持ちを持ってもらう)
その他 ボランティア意識のある町民の増加

(3) 中学生ワークショップ

目的：協働のまちづくりのもと計画策定を進めるにあたり、テーマを「10年後、中学生が住み続けたい吉岡町」として、ゲーム型ワークショップを開催しました。

対象：生徒会役員・学級委員等の3年生

概要

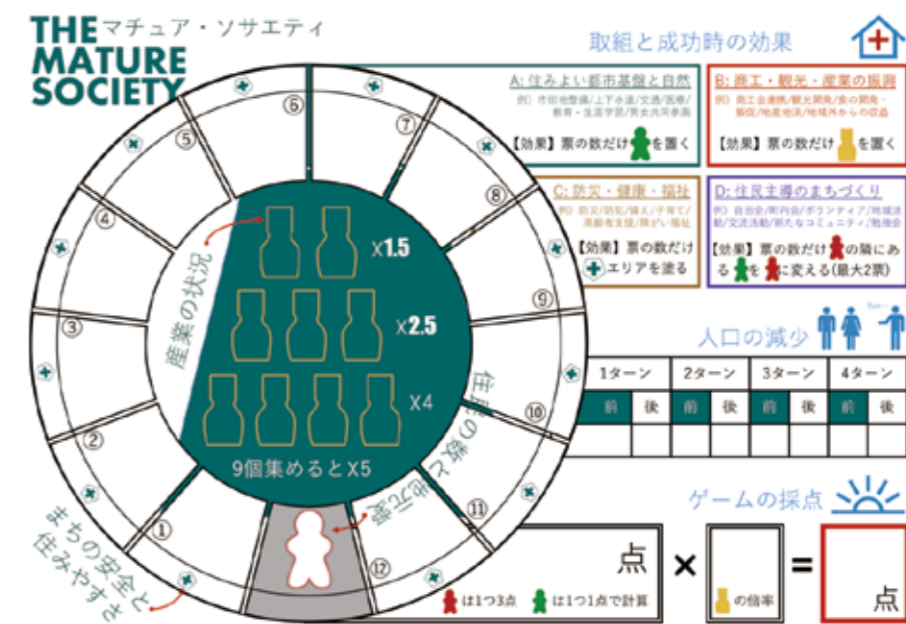
令和3年6月14日・・・オリエンテーション、ワーキング「マチュア・ソサエティ=成熟社会」、発表
19人参加

ゲーム型ワークショップ「マチュア・ソサエティ」とは?

人口減少時代にあって、今後必要となるまちづくりの施策をプレゼンテーション形式で提案し、住民の人口維持を競い合うゲームです。

ゲーム体験のほか、ゲーム後の振り返りにより吉岡町の現状と展望について話し合うことを重要とします。

マチュア・ソサエティのゲームシート



マチュア・ソサエティでは、手持ちの駒で表されるまちの人口が時間の経過とともに減少していきます。人口減少を食い止めるため、参加者は「A:住みよい都市基盤と自然」、「B:商工・観光・産業の振興」、「C:防災・健康・福祉」、「D:住民主導のまちづくり」の4分野のうち、自分で選択した分野について一枚の白紙を用いて、4人ほどのグループのメンバーに対して施策のプレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、グループ内で評価され、例えば「A:住みよい都市基盤と自然」分野のプレゼンテーションで高い評価を得た参加者は手持ちの駒(人口)が増えます。「D:住民主導のまちづくり」分野のプレゼンテーションで高い評価を得た場合は、手持ちの駒(人口)が「地元愛を持つ住民」に変わり、人口減少の趨勢にあっても決してまちから流出しない人へと変化します。

プレゼンテーションと成功時の効果を繰り返し、最終的に残った駒(人口)の数で勝負を決めます。

A：「住みよい都市基盤と自然」分野の施策アイデア

●交通・防犯等の整備

- ・交通網の整備(全体的)
- ・バスあるいはレンタルバイク等の整備(×3、町内循環バスにより→これらをつくることでお年寄りでも出かけやすくなると思うから、車を持たなくても軽く住んでみようかなとなる町に、自転車と自動車の間が狭いので専用の道をつくる)
- ・吉岡に駅をつくる(×2、<駅のないデメリット>移動が難しい、夜に自転車で帰る→危険、<駅のあるメリット>人の行き来増、駅のお店→町が盛り上がる)
- ・通学路の整備(×2、自分たちでカーブミラーをふいたり、草むしりをしたりする→通りやすくなる(自分達も地域の方も))
- ・街灯、ミラー等の整備(×6、カーブミラーの鏡の部分が汚れていたりして車が来ているのか判断しにくいし、事故につながってしまう、吉岡町はバイパスがあることからバイパス沿いは明るく危険が少ないが暗い所は危ない、街灯・防犯カメラ・信号 etc. により安心して生活できる、街灯が少ないから整備しよう!(整備されつつあるけどまだないところもたくさんある))
- ・信号の時間の長さを長くする(信号の長さがおかしいところがあるので、そこを調節する。イライラがなくなる→快適)

●公園・環境関連の整備

- ・公園を増やす(×3、<メリット>子ども達が遊べる場を増やせる、緑が増える、高齢者・小さい子どもを持つ方が休んだり集まったりできる、整備された公園をつくることで様々な人が利用しやすくなり、より快適な町にすることができる。)
- ・ごみ処理関連(×2、ゴミステーションを整備(ゴミステーションにゴミがあふれているとみずばらしい。→1箇所により多くのゴミステーションを設置することで解決できる)、道路などにポイ捨てされるゴミを減らし、分別をしっかりとる。)
- ・エコ集合住宅を形成しよう!(集合住宅を形成することで、住民の交流の場が増え、意見を交換したりすることができる)
- ・緑化面の整備を強化しよう!(地球温暖化(対策)、見た目も明るい町になる)

●その他

- ・吉岡町に高校を作る(×2)
- ・利根川をもっと利用すべき
- ・用水路を増やす

C：「防災・健康・福祉」分野の施策アイデア

●高齢者、障害者福祉

- ・町民全員が無料で、町内の色々な場所に行けるようなバス(高齢者への支援)
- ・障害のある方、高齢者が使用できる割引券などを配布する

●その他

- ・日曜・祝日でも通常診療を行ってくれる病院
- ・道路整備と信号機の工夫(道がでこぼこ→自転車、ベビーカー、お年寄り、ひっかかると危ない、信号機に音をつける→目が見えない方も安心、安全な暮らし、誰もが安心できる)

B：「商工・観光・産業の振興」分野の施策アイデア

●観光資源の開発

- ・人が集まってくる施設を作る(×7、観光スポットを作ることにより、若者を中心とした人が訪れ、街の魅力に気付いてもらえる(人が増える)、花火大会を開催しよう、『吉岡町といえば〇〇』をつくる(人が集まるようになる)、月に2回ほど、地域の野菜などを販売する朝市を行う(小学校や中学校で、農家と学生が販売する。名物になれば観光客が来る)、自然を生かしたところ(観光資源)を紹介する施設を創る(“町の名物”みたいなものをつくる!)、自然を利用したレジャー施設をつくりたい、吉岡自然エネルギーパークの整備(自分で発電の体験とか、それを使って動かしてみたり、自らの体験で深く分かる、小学生など遊具感覚で)、特産品をメインとした観光施設を作る(PRをもっと)

●名物や特産品づくり

- ・名物や特産品を開発する(×3、町の特産物や、「この町といたらこれだ!」というものを作ろう!知名度が上がることでこの町に興味を持つ人が!、もっと町の代表的な料理をつくろう(群馬には、キャベツやこんにゃくなどの食材があるので、それらを使って、新しい代表的な料理をつくる)、食の開発(名物が少ないのが改善され、収益増、地産地消、『吉岡町といえばこれ!』みたいな→まちのイメージUP!))
- ・まちのゆるキャラをつくる(着ぐるみにしなくてもいい、町民から募集、町の一体感(イベントで登場させたり…)ふるさとへの思い入れ)

●商店の商業施設の形成

- ・商店やショッピングモールをつくる(×3、飲食店があまりないので吉岡町の人を作る、(お店が)一箇所にかたまっているので違う場所にも増やす、ショッピングモールがあれば違う市などに行かなくていいし、逆に他の市から来るかもしれない。そうすれば吉岡町が人気になる、『地産地消』をモットーに町のレストランやスーパーで売る(環境に良い、給食だけでなく、広報などでの宣伝(給食の話)、好きなものを安く))

●その他

- ・給食に町で作った食材をもっと出す(地産地消になる、地域のことを知れる)
- ・子どもから大人まで、たくさんの方がふれ合える場所をつくる(ふれ合う場所をつくることで、町がより活気づく。)
- ・町全体を発展(町の中で山になっているところも、南の方の地域のように発展させる)

D：「住民主導のまちづくり」分野の施策アイデア

●地域社会の活性化

- ・地域活動の実施(×3、子ども同士や地域の人と勉強会をする(学校を開放する(主に休日)、地域の公会堂を開放する(放課後))、地域活動を増やす(地域の人たちと関わって、もっといい吉岡になると思うから)、『ふるさと』の地域社会(あいさつ運動、町民みんなで参加するイベント(名産ふるさとまつり)、吉岡町が楽しい!住んで良かった!都会にしたいわけじゃなくて、住みよいコミュニティに…))
- ・ボランティア活動の実施(×2、祭りやボランティア活動をもっと増やしたい(コンセプト→数少ない祭りやボランティア活動をもっと増やして、町を盛り上げる)、町に住む子どもたちがボランティア!!(町に住む人たちのために、町民の仲が深まる。防犯にも…?子どもたちの心が育つ))

●施設整備

- ・児童館を各地区に(今、吉岡町には児童館が1つある。ただ、遠くて、なかなか通うことができない人もいると思うので、各地区に1つ児童館を設置する)
- ・図書館をもっと増やそう(本に触れる機会が少なくなったので)

●地域間交流

- ・他の市町村の中学生との交流(自分の町の魅力を伝える、他の市町村の魅力を知れる、新たな交流→協力)
- ・外国人留学生を受け入れる場所や、交流するスペースを作りたい(<メリット>海外の文化を学べる、海外の言語を学べる。)

4 SDGsの17のゴールと自治体行政の関係

以下は、自治体が施策、事業を行っていくうえで、SDGsがどのように関係するのかをまとめたものです。

- 1. 貧困をなくそう**
自治体行政は貧困に苦しむ人々を支援する上で最も適したポジションにいます。各自治体において、すべての市民が必要最低限の暮らしを確保することができるよう、きめ細やかな支援策が求められています。
- 2. 飢餓をゼロに**
自治体は土地や水資源を含む自然資産を活用して農業や畜産業などの食糧生産の支援を行うことが可能です。そのためにも適切な土地利用計画が不可欠です。公的・私的な土地で都市農業を含む食料生産活動を推進し、安全な食料確保に貢献することもできます。
- 3. すべての人に健康と福祉を**
住民の健康維持は自治体の健康福祉行政の根幹です。国民皆保険制度の運営も住民の健康維持に貢献しています。都市環境を良好に保つことが住民の健康状態を維持・改善に必要なものであるという研究も報告されています。
- 4. 質の高い教育をみんなに**
教育の中でも特に義務教育等の初等教育においては自治体が果たすべき役割は非常に大きいといえます。地域住民の知的レベルを引き上げるためにも、学校生活と社会教育の両面における自治体行政の取り組みは重要です。
- 5. ジェンダー平等を実現しよう**
自治体による女性や子ども等の弱者の人権を守る取り組みは大変重要です。また、自治体行政や社会システムにジェンダー平等を反映させるために、行政職員や審議会委員等における女性の割合を増やすのも重要な取り組みといえます。
- 6. 安全な水とトイレを世界中に**
安全で清潔な水へのアクセスは住民の日常生活を支える基盤です。水道事業は自治体の行政サービスとして提供されることが多く、水源地の環境保全を通して水質を良好に保つことも自治体の大事な責務です。
- 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに**
公共建築物に対して率先して省エネや再エネを活用したり、住民が再/省エネ対策を推進するのを支援する等、安価かつ効率的で信頼性の高い持続可能なエネルギー源利用のアクセスを増やすことも自治体の大きな役割といえます。
- 8. 働きがいも経済成長も**
自治体は経済成長戦略の策定を通して地域経済の活性化や雇用の創出に積極的に関与することができます。また、勤務環境の改善や社会サービスの制度整備を通して労働者の待遇を改善することも可能な立場にあります。

- 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう**
自治体は地域のインフラ整備に対して極めて大きな役割を有しています。地域経済の活性化戦略の中に、地元企業の支援などを盛り込むことで新たな産業やイノベーションを創出することにも貢献することができます。
- 10. 人や国の差別をなくそう**
差別や偏見の解消を推進する上でも自治体は主導的な役割を担うことができます。少数意見を吸い上げつつ、不公平・不平等のないづくりを行うことが求められています。
- 11. 住み続けられるまちづくりを**
包摂的で、安全、レジリエントで持続可能なまちづくりを進めることは首長や自治体行政職員にとって究極的な目標であり、存在理由そのものです。都市化が進む世界の中で自治体行政の果たし得る役割は益々大きくなっています。
- 12. つくる責任つかう責任**
環境負荷削減を進める上で持続可能な生産と消費は非常に重要なテーマです。これを推進するためには住民一人ひとりの意識や行動を見直す必要があります。省エネや3Rの徹底など、住民対象の環境教育などを行うことで自治体はこの流れを加速させることが可能です。
- 13. 気候変動に具体的な対策を**
気候変動問題は年々深刻化し、既に多くの形でその影響は顕在化しています。従来の温室効果ガス削減といった緩和策だけでなく、気候変動に備えた適応策の検討と策定を各自治体で行うことが求められています。
- 14. 海の豊かさを守ろう**
海洋汚染の原因の8割は陸上の活動に起因していると言われていています。まちの中で発生した汚染が河川等を通して海洋に流れ出ることがないように、臨海部のまちだけではなく、すべての自治体で汚染対策を講じることが重要です。
- 15. 陸の豊かさを守ろう**
自然体系の保護と土地利用計画は密接な関係があり、自治体が大きな役割を有するといえます。自然資産を広域に保護するためには、自治体単独で対策を講じるのではなく、国や周辺自治体、その他関係者との連携が不可欠です。
- 16. 平和と公正をすべての人に**
平和で公正な社会をつくる上でも自治体は大きな責務を負っています。地域内の多くの住民の参画を促して参加型の行政を推進して、暴力や犯罪を減らすのも自治体の役割といえます。
- 17. パートナーシップで目標を達成しよう**
自治体は公的 / 民間セクター、住民、NPO等の多くの関係者を結び付け、パートナーシップの推進を担う中核的な存在になり得ます。持続可能な世界を構築していく上で多様な主体の協力関係を築くことは極めて重要です。

出典：一般財団法人建築環境・省エネルギー機構「私たちのまちにとってのSDGs（持続可能な開発目標）—導入のためのガイドライン—」

5

吉岡町総合計画 審議会条例

平成9年3月21日
条例第3号

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、吉岡町総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、町長の諮問に応じ吉岡町総合計画の策定に関する事項について調査及び審議する。

(組織)

第3条 審議会は、委員18人以内で組織する。

2 委員は、町内外の識見を有する者のうちから町長が任命する。

(任期)

第4条 委員は、当該諮問に係る審議が終了したときは、解任されるものとする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の定数の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、企画財政課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成17年条例第37号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成18年条例第26号)抄

1 この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(令和元年条例第33号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

6

吉岡町総合計画 審議会委員名簿

氏名	所属等
◎ 堤 隆雄	吉岡町自治会連合会
○ 宿谷 忍	吉岡町社会福祉協議会
萩原 隆夫	吉岡町農業委員会
藤多 ゆかり	吉岡町教育委員会
森田 均	吉岡町都市計画審議会
河合 祖信	吉岡町子ども・子育て会議
小池 理久	吉岡町民生委員児童委員協議会
坂田 昭二	吉岡町勤労者協和会
齊藤 肇夫	公募
須田 永次	吉岡町商工会
中沢 久光	北群渋川農業協同組合
戸塚 洋子	群馬県北群馬渋川振興局
金井 敏	高崎健康福祉大学健康福祉学部
金井 昌信	群馬大学大学院理工学府

◎会長 ○副会長

7 諮問・答申

(1) 諮問書

吉企企第 104 号
令和 3 年 6 月 21 日

吉岡町総合計画審議会長 様

吉岡町長 柴崎 徳一郎

第 6 次吉岡町総合計画について (諮問)

第 6 次吉岡町総合計画策定のため、吉岡町総合計画審議会条例第 2 条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

(2) 答申書

令和 3 年 11 月 9 日

吉岡町長 柴崎 徳一郎 様

吉岡町総合計画審議会
会長 堤 隆雄

第 6 次吉岡町総合計画について (答申)

令和 3 年 6 月 21 日付け吉企企第 104 号をもって諮問された第 6 次吉岡町総合計画 (素案) について、本町の現状と将来の可能性を総合的かつ慎重に審議した結果、下記のとおり答申します。

なお、審議の過程において委員から出された意見等についても、最大限尊重されるよう要望します。

記

1. 本計画の趣旨や内容をわかりやすく周知し、公共私が多様な主体と協働して、「思いを紡ぎ、未来につなげるまちづくり 吉岡」の実現に全力で取り組まれない。
2. 総合計画に掲げられた目標や施策を着実に具現化し、町の課題解決に向けて鋭意努力いただきたい。
3. 変動する社会情勢の中で生じる新たな課題等に対しては、適切かつ柔軟な発想をもって対応を図られたい。
4. 進捗管理にあたっては、達成目標により施策の成果を推し測るほか、行政改革の視点を取り入れた事務・事業の評価・検証に取り組まれない。
5. 効率的な予算執行による堅実な行政経営のもと、本計画の推進に取り組まれない。
6. 持続的な発展を見据え、「紡ぐ」を町政のあらゆる場面で共有し、すべての住民が誇りを持ち、今よりもっと住み続けたいよう、町の魅力向上に努めていただきたい。

8 吉岡町議会総合計画 特別委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名
吉岡町議会	委員	小林 静弥
吉岡町議会	委員	富岡 栄一
吉岡町議会	委員	飯塚 憲治
吉岡町議会	副委員長	廣嶋 隆
吉岡町議会	委員	富岡 大志
吉岡町議会	委員	金谷 康弘
吉岡町議会	委員	村越 哲夫
吉岡町議会	委員	坂田 一広
吉岡町議会	委員	飯島 衛
吉岡町議会	委員長	平形 薫
吉岡町議会	委員	山畑 祐男
吉岡町議会	委員	小池 春雄

議長 岩崎 信幸

9

策定経過

年月	経過概要 ○審議会 △策定委員会 □策定部会 ◇町議会 ・取組等
平成30年 12月	・住民アンケート及び基礎調査
令和元年 9月	・第1回プロジェクトチームワークショップ ビックデータ分析について
10月	・第2回プロジェクトチームワークショップ IoT・AI・ビッグデータの活用技術について
11月	・第3回プロジェクトチームワークショップ Society5.0について
令和2年 1月	・第5次吉岡町総合計画後期基本計画達成状況調査
2月	◇吉岡町議会全員協議会 住民アンケート及び基礎調査結果に係る報告
7月	・庁議 第5次吉岡町総合計画基本構想の変更について
8月	◇吉岡町議会全員協議会 第5次吉岡町総合計画基本構想の変更について
9月	◇第3回吉岡町議会定例会 第5次吉岡町総合計画基本構想の変更について上程、議決
10月	・第1回住民ワークショップ 町の現状と課題について
11月	・第2回住民ワークショップ 地域産業・観光・教育・文化について
12月	・第3回住民ワークショップ 福祉・健康・生活環境について
令和3年 3月	・第5次吉岡町総合計画・後期基本計画達成状況調査（再実施） ・団体ワークショップ これからのまちづくりについて
6月	・中学生ワークショップ マチュア・ソサエティ=成熟社会について △第1回吉岡町総合計画策定委員会 総合計画概要、策定経過、今後の予定、吉岡町総合計画審議会への諮問 □第1回吉岡町総合計画策定部会 部会長及び副部会長の指名、総合計画の概要、策定経過、今後の予定 ○第1回吉岡町総合計画審議会 会長及び副会長の選出、諮問、総合計画の概要、策定経過、今後の予定

年月	経過概要 ○審議会 △策定委員会 □策定部会 ◇町議会 ・取組等
令和3年 7月	△第2回吉岡町総合計画策定委員会 第6次吉岡町総合計画素案について 序論：町の概要、世の中の動き、町の動き、これから踏まえるべき新たな視点、町の強みと課題 基本構想：将来像のキーワード、まちづくりポリシー、基本目標
8月	○第2回吉岡町総合計画審議会 第6次吉岡町総合計画素案について 序論：町の概要、世の中の動き、町の動き、これから踏まえるべき新たな視点、町の強みと課題 基本構想：将来像、まちづくりポリシー、基本目標 □第2回吉岡町総合計画策定部会 第6次吉岡町総合計画素案について 序論：町の概要、世の中の動き、町の動き、これから踏まえるべき新たな視点、町の強みと課題 基本構想：将来像、まちづくりポリシー、基本目標 前期基本計画施策マネジメントシートについて
10月	□第3回吉岡町総合計画策定部会 第6次吉岡町総合計画序論及び基本構想素案の修正について 前期基本計画素案について 体系、施策（現況と課題、取組、達成目標、関連計画、SDGs） △第3回吉岡町総合計画策定委員会 第6次吉岡町総合計画序論及び基本構想素案の修正について 前期基本計画素案について 体系、施策（現況と課題、取組、達成目標、関連計画、SDGs） ○第3回吉岡町総合計画審議会 第6次吉岡町総合計画序論及び基本構想素案の修正について 前期基本計画素案について 体系、施策（現況と課題、取組、達成目標、関連計画、SDGs） ◇吉岡町議会全員協議会 第6次吉岡町総合計画序論及び基本構想素案について ・第6次吉岡町総合計画基本構想素案（序論含む）に係るパブリックコメント 10月16日～11月4日意見募集 □第4回吉岡町総合計画策定部会 第6次吉岡町総合計画素案の修正について 前期基本計画施策マネジメントシートについて
11月	○第4回吉岡町総合計画審議会 第6次吉岡町総合計画の答申案について ・吉岡町総合計画審議会からの答申 △第4回吉岡町総合計画策定委員会 第6次吉岡町総合計画案の確定について ・庁議 第6次吉岡町総合計画案について
12月	◇第4回吉岡町議会定例会 第6次吉岡町総合計画基本構想について上程、吉岡町議会総合計画特別委員会設置 ◇第1回吉岡町議会総合計画特別委員会 第6次吉岡町総合計画案について

序
論

基本
構想

基本
計画

結
< 1

結
< 2

結
< 3

結
< 4

結
< 5

結
< 6

資
料

年月	経過概要
	○審議会 △策定委員会 □策定部会 ◇町議会 ・取組等
令和4年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第6次総合計画前期基本計画素案に係るパブリックコメント 1月4日～1月27日意見募集 ◇ 第2回吉岡町議会総合計画特別委員会 第6次吉岡町総合計画案について
2月	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 第3回吉岡町議会総合計画特別委員会 第6次吉岡町総合計画案について △ 第5回吉岡町総合計画策定委員会 第6次吉岡町総合計画案の修正について ◇ 第4回吉岡町議会総合計画特別委員会 第6次吉岡町総合計画案について △ 第6回吉岡町総合計画策定委員会 第6次吉岡町総合計画案の修正について
3月	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 第1回吉岡町議会定例会 第6次吉岡町総合計画基本構想について議決 ○ 第5回吉岡町総合計画審議会 第6次吉岡町総合計画の報告について □ 第5回吉岡町総合計画策定部会 第6次吉岡町総合計画について △ 第7回吉岡町総合計画策定委員会 第6次吉岡町総合計画について ・ 第6次吉岡町総合計画策定

第6次吉岡町総合計画

発行 吉岡町
 住所 〒370-3692
 群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田560番地
 TEL 0279-54-3111
 URL <https://www.town.yoshioka.gunma.jp/>
 発行年月 令和4年3月

序

論

基本構想

基本計画

結
< 1

結
< 2

結
< 3

結
< 4

結
< 5

結
< 6

資料



思いを紡ぎ、未来につなげるまちづくり 吉岡